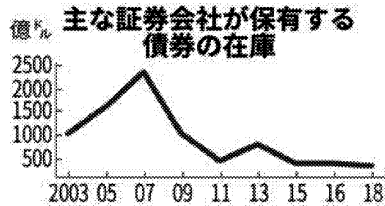


(出所)ブラックロック



(出所)ブラックロック

債券ETF市場が拡大

債券を組み込んだ上場投資信託（ETF）の市場が拡大している。世界的な低金利で、利回りの取れる社債などの需要が急増。市場でいつでも売買できるETFの特長を生かし、米ブラックロックや米バンガード・グループなどが新しい商品を購入している。資産規模は6月末で1兆円（約106兆円）を超えるなど、株式ETFに次ぐ存在になってきている。

100兆円超え 運用大手が新商品

低金利で資金流入

ブラックロックは7月、低格付けで利回りが高い、欧州のハイイールド社債を組み入れる「iシェアーズユーロハイイールドコーポボンド・スイスフランヘッジ」など5本の債券ETFを設定。バンガード・グループも6月に世界の国債や社債を組み入れる「バンガードグローバルアグリゲイトボンド・ユーロヘッジ」など5本を上場した。世界の運用大手が相次いで設定する背景には世界的な低金利がある。マインズ金利での国債発行も増えるなか「先進国国債を中心として運用していた投資家でもリターンが得られる社債をETFを通じて購入するニーズが高まっている」(米ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ日本法人の杉原正記氏)のためだ。上場する銘柄ごとに取

引所で売買できる株式と違って、種類が多い債券ETFは投資家と証券会社の相対取引が中心。価格が不透明で、売買するにもウハウハが必要だ。ETFは特定の指数に連動させる投資信託。上場しており、取引所で誰でも購入することができ、価格も明示されており、新たに債券を組み入れた投資家にとってハードルが低く、裾野が広がっている。ブラックロックによると世界の債券型ETFの資産規模は19年6月末で1兆5000億ドルと、15年末の4900億ドルから2倍強に増えた。同期間の株式型の伸び（8割増）より高い。株式は市場全体（約80兆ドル）のうちETFが4兆3500億ドルを占めるが、債券は市場全体（約100兆ドル）と比べるとまだ拡大余地が大きい。ETFへ資金が流れている。個人投資家の資金も入っている。ステート・ストリートの「SPDRダブルライントータルリターンタクトイカル」は、新債券王と呼ばれるジェフリー・ガンドラック氏の米ダブルライン・キャピタルが運用の助言をすすめる。米国では長期の資産形成に向けて個人からの人気も高い。

日本では米国に比べると債券ETFの投資対象としての選択肢は少ない。東京証券取引所に上場するETF235本のうち、債券は14本にとどまる。ブラックロックは米国債などを組み入れるETF4本を運用しており「どんなマーケット環境でも対応できるように

ある。「24年末までに2兆円に達する可能性が高い」（ロバート・カピエト社長）とみられる。債券市場の構造変化もある。リーマン・ショック後の金融規制で、証券会社は価格変動リスクのある資産の保有が制限された。主な証券会社の債券在庫は18年に320億ドルと07年の7分の1まで減少したとみられ、相対的の売買がしにくくなり、ETFへと資金が流れている。